

福祉サービス第三者評価

評価結果基本情報

評価年度	平成 25 年度
サービス名称	認可保育所
事業所名称	バオバブ保育園
評価機関名称	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
評価者	修了者 No.H1002063 修了者 No.H0702006 修了者 No.H0702077 修了者 No.H0902065
評価実施期間	2013 年 9 月 1 日 ~ 2014 年 2 月 25 日
事業評価実施期間	2013 年 9 月 13 日 ~ 2014 年 2 月 25 日
利用者調査実施期間	2013 年 9 月 17 日 ~ 2013 年 11 月 6 日

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

事業者の理念・方針、期待する職員像

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1)子ども他安心して毎日を過ごす中で心身ともに健やかに育っていく場となる 2)保護者が安心して子どもを預けることが出来る場となる 3)保護者と子どもへの思いや情報の共有に努め、共に育てる関係となるよう努める 4)職員どうしが思いやりや情報を共有し、協力して仕事を進め、保育者として共に育って行けるよう努める 5)園が持つ機能や設備を地域の子育て家庭に出来る限り開放し、地域の子育てに貢献できるよう努める
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 子どもの側、保護者の側に身を置いて考え、思いをくみ取り、沿おうとする。保育の家庭をふりかえり、同僚とも話し合い、次はどうあったらよいかを構想しようとする。自らを磨き向上していこうとする。職員集団の一員として、自らの位置を理解し、園全体の向上を目指そうとする。
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であるとの意識を明確に持って、その役割を果たして欲しい。その役割を果たすための組織的努力、個人的努力はどうあるべきかを常に考え積極的に行動して欲しい。

全体の評価講評

特に良いと思う点

- さまざまな工夫によって子どもの育ちの全体像を把握し、一人ひとりの発達や特性に即した支援につなげている
- 日常の活動の延長として、子どもの自主性や発想を引き出しながらさまざまな行事へと連動させ、豊かな体験を培っている

- 積極的な意向の把握・活用と独自の工夫による交流や親睦に向けた機会の設定により、保護者との密な連携に努めている

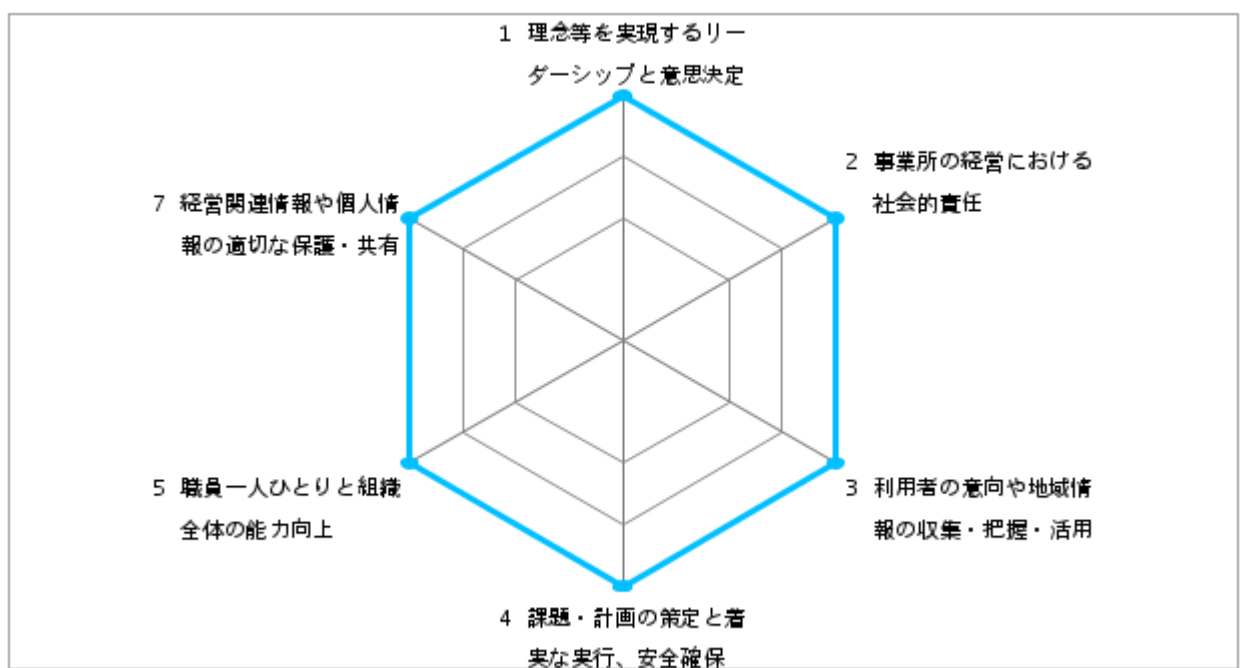
さらなる改善が望まれる点

- 発達の見通しのもとでの保育実践をさらに充実させるために、週の指導計画の作成・記載のあり方を見直しを期待したい
- 新たなリーダー層の育成に向け、個々の職員の状況を踏まえた計画的な育成の仕組みの整備が期待される
- 職員のバイブル「BBハンドブック」の精査と見直しを図り、より実態に即した内容として質の向上につなげることを期待したい

事業者が特に力を入れている取り組み

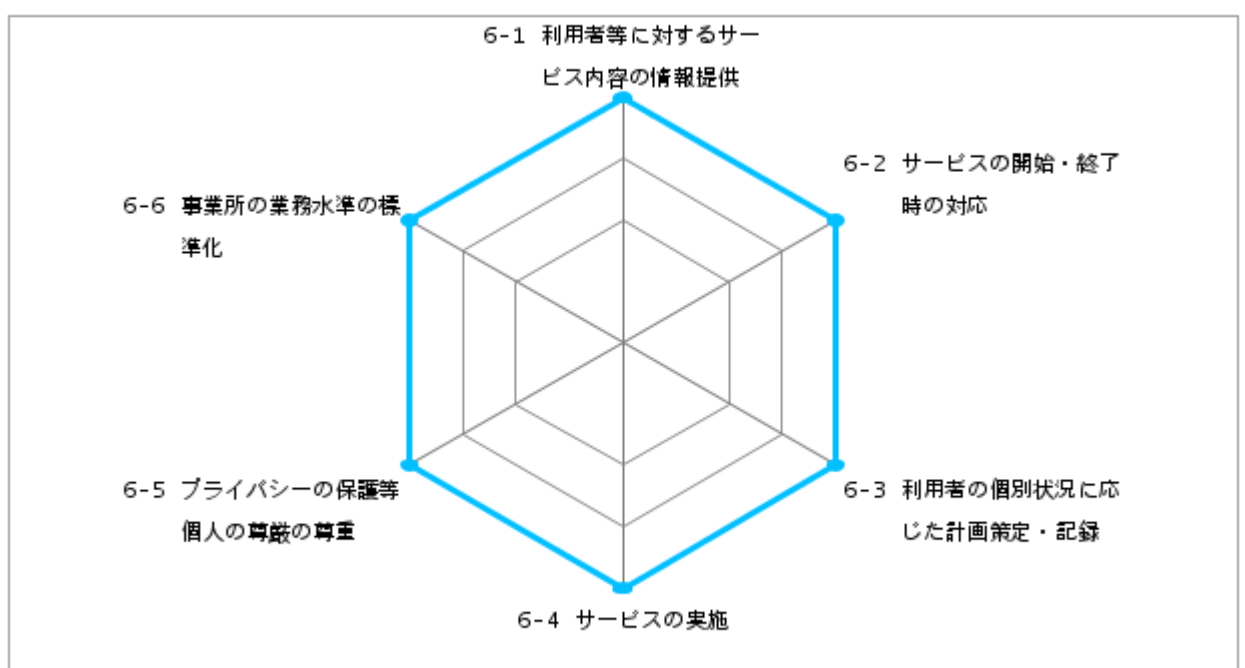
- ★ 園の多彩な専門性を活かし、さまざまな取組で地域の保護者の子育てを支援している
- ★ 年2回の保育の振り返りが、保育や子どもの育ちへの各職員の認識をさらに深めている
- ★ さまざまな情報発信で日々の保育と子どもの姿を伝え、保護者との相互理解を深めている

25年度 組織マネジメント（ カテゴリー1～5、7 ）



— 25年度 組織マネジメント

25年度 サービス項目（ カテゴリー6 ）



— 25年度 サービス項目

サービス分析結果

サービスの実施項目

サービスの実施	37/37
1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	○○○○○
【講評】	

<ul style="list-style-type: none"> 子どもの全体的姿を把握し、主体的に活動できるよう環境構成を工夫している 楽しく行う異年齢の活動を通じ、自発性やいたわり・成長への憧れを培っている 個々の子どもの特性に即した支援や子ども同士のトラブル等への対応を行っている 	
2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている	○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 保護者との毎日の連携に向けた仕組みを整え、子どもや家庭との様子を共有している 子どもが生活習慣を確立するため、一人ひとりに合わせて支援することに努めている 生活状況と子どもの発達を考慮した休息と午睡のための配慮をしている 	
3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味や意欲を尊重し、遊びの連続性に配慮して自主性・自発性を促している 子どもの集団活動への主体的な関わりを促す工夫を行っている 子どもが自然に親しみ、季節の移ろいを感じられる活動を支援している 	
4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている	○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に関われるような行事の取組が行われている 子どもが参加して楽しめるさまざまな行事を年間を通して行っている 行事実施にあたって保護者の理解を得るとともに、さまざまな人との交流を体験している 	
5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 長時間にわたる保育のために、子どもの生活リズムや心身への配慮をしている 異年齢の子どもが長時間の保育を楽しく過ごせる工夫に取り組んでいる 降園時の保護者への情報伝達や職員間の連携に向け、仕組みを整備している 	
6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	○○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 安全、安心を心がけた食材と楽しく意欲的に食事を摂れる配慮をしている 食材や献立の工夫や多彩な行事食などの工夫がなされている アレルギー対応や離乳食など、個別状況に応じた食事の提供をしている 	
7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている	○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の中で子どもの意識付けを行って、ケガや感染症予防に努めている 個々の子どもの健康状態の把握に努め、嘱託医と連携して健康管理を行っている 感染症等の保健情報を発信して、感染症予防や蔓延防止などに努めている 	
8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	○○○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 多様な機会を通じて個々の保護者の意向等を把握して柔軟な支援を行っている さまざまな方法で保護者に園の保育や子どもの姿を伝え、理解共有を図っている アンケート等によって保護者の意向を把握し、業務の改善に活かしている 	
9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している	○○○
【講評】 <ul style="list-style-type: none"> 地域の子育てセンターとして多様な取組を行い、保育の専門性を地域に還元している 多様な子育て支援の中で交流が図られ、地域の子育て世帯のコミュニティとなっている 各事業の反省と参加者のアンケートを参考にして次年度の事業計画を策定している 	

利用者調査結果

有効回答者数 53 / 利用者総数 96	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	92.0%	3.0%	1.0%	1.0%
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	83.0%	7.0%	1.0%	7.0%
4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	75.0%	20.0%	3.0%	0.0%
5. 安全対策が十分取られていると思うか	50.0%	37.0%	9.0%	1.0%
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	66.0%	30.0%	3.0%	0.0%
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	90.0%	5.0%	3.0%	0.0%

8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	83.0%	9.0%	1.0%	5.0%
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	73.0%	15.0%	1.0%	9.0%
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	94.0%	1.0%	1.0%	1.0%
11. 職員の対応は丁寧か	88.0%	11.0%	0.0%	0.0%
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	54.0%	28.0%	5.0%	11.0%
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	56.0%	24.0%	0.0%	18.0%
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	90.0%	1.0%	1.0%	5.0%
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	66.0%	22.0%	0.0%	11.0%

事業者のコメント

全体の評価講評

全体の評価講評

特に良いと思う点

<p>さまざまな工夫によって子どもの育ちの全体像を把握し、一人ひとりの発達や特性に即した支援につなげている</p> <p>日々の保育の中で子どもの生活が時間に追われることのないように、見通しを立てた計画を設定したうえで、長時間を過ごす子どもたちがゆったりと過ごせるような関わりを大切にしている。乳児は活動によって小グループでの関わりをすることで、高月齢の子どもが一つ上の年齢の子どもと過ごせる機会を設けたり、日々の活動や行事など子どもが主体性を持って取り組めるように、子どもの様子を見守ることで子どもの興味関心を把握して、意欲を引き出せるような保育を大切に、支援につなげている。</p>
<p>日常の活動の延長として、子どもの自主性や発想を引き出しながらさまざまな行事へと運動させ、豊かな体験を培っている</p> <p>行事は日常の活動の延長と位置づけ、子どもの遊びや日常生活など興味や意欲、連続性を活かした内容や構成を考案し、子どもの成長発達の状況に配慮しながら、達成感の喜びを感じる機会としている。幼児クラスは年4回「お弁当の日」を設定し、近隣の公園に出かけたり、公共交通機関を利用して遠出をするなどの体験をしている。「プレイデー(運動会)」や劇遊び、合宿や「お泊り会」など、行事に向けた活動や取組の中で、年齢に応じて子どもが参画し、準備や計画を話し合う機会を設けるなど、主体性の促しにもつなげる配慮がなされている。</p>
<p>積極的な意向の把握・活用と独自の工夫による交流や親睦に向けた機会の設定により、保護者との密な連携に努めている</p> <p>年度当初に保育に関する要望をアンケートで募る取組を実施するほか、毎年行う利用者調査では満足度や設問別の傾向のほか自由意見への回答を示し、保護者との相互理解と信頼関係向上に活かしている。またクラス別の懇談会に加え、保護者との交流機会「ワークショップ」、保護者と職員の親睦組織「ぞうの会」主導によるクラス別の懇親会も行われ、前者では園の備品制作や美化活動・ミニコンサート、後者では絵本作りや弁当を持ち寄っての懇談、フリーマーケットなど、保護者と園が交流と親睦を深め、協働できる機会をさまざまに設けている。</p>

さらなる改善が望まれる点

<p>発達の見通しのもとでの保育実践をさらに充実させるために、週の指導計画の作成・記載のあり方の見直しを期待したい</p> <p>年度当初には園の保育や各種業務の基本手順などを示した「BBハンドブック」のうちから抜粋した箇所を職員で読み合わせ、保育課程をもとに年間計画が立てられている。中間と年度末に年間計画の振り返りを行い、個別や集団のエピソードやクラステーマ、取組内容の振り返りなどを職員間で共有している。月の指導計画においてはねらいや個別の計画、振り返りがなされているが、週案の作成、整合性に関しては若干の改善の余地が見られることから、保育のさらなる充実に向けた今後の検討と取組に期待が寄せられる。</p>
<p>新たなリーダー層の育成に向け、個々の職員の状況を踏まえた計画的な育成の仕組みの整備が期待される</p> <p>法人の拠点園として、結果として園で育ったリーダーが系列各園の中核を担うこととなっていることもあり、当園における新たな中間層・リーダー層の育成が課題となっている。経営層は従来の各職員の自主性に委ねた研修参加のみでなく、個々に求められる資質向上などを踏まえたうえでの計画的な資質向上についても、必要性が意識されている。現在でも緩やかには行っているが、個々人の要望や目標をより具体的に把握し、園として期待する成長目標も踏まえた育成計画の策定についても、今後検討の余地はあると思われる。</p>
<p>職員のバイブル「BBハンドブック」の精査と見直しを図り、より実態に即した内容として質の向上につなげることを期待したい</p> <p>日常の保育については系列園との合同による年2回の振り返りを行い、また実践を通じた種々の見直し・改善については運営委員会や安全衛生委員会を通じて随時行われている。系列園共通の「BBハンドブック」については、21年度の策定以降、内容の見直しが懸案とされている。感染症対応など随時のメンテナンスが必要な事項も含め、内容の精査と適宜の改訂が課題となっており、今後定期的な見直しの時期・手順を明確化し、継続的な質の向上につなげることが期待される。</p>

コメント

<p>利用者調査では開始時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状、園内掲示用のポスターなどで理解促進を図り、開始後には回収率向上のため提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付した。また開始時の説明で評価項目への理解が深まるよう配慮したり、各標準項目の振り返りを的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所が自己評価を行うにあたっての疑問や不安を軽減できるようにしている。</p>

事業者が特に力を入れている取り組み

<p>★ 園の多彩な専門性を活かし、さまざまな取組で地域の保護者の子育てを支援している</p> <p>多目的室「プレーメン」や空き保育室等を活用して展開する地域子育て支援センター「プレーメン」では、相談事業のほか週2回の園開放、年7回の保育所体験などさまざまな取組を行い、各種の</p>
--

講座や保育所での遊びや散歩・制作などの活動と食事の体験、発達支援などを行う保護者サークルの支援など、保育所としての専門性の発揮に取り組んでいる。年10回発行の情報紙「プレーメンの庭から」も食事や保健のコラムや利用者の育児体験記、在園世帯の投稿等の多彩な内容とするなど、園の枠を超え、さまざまな取組で地域の保護者の子育てを支援している。
関連評価項目 (事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある)
<p>★年2回の保育の振り返りが、保育や子どもの育ちへの各職員の認識をさらに深めている</p> <p>系列の「ちいさな家」と合同で行う半期ごとの保育の振り返りでは、保育実践に関する写真も活用した具体的な話し合いを通じて、組織的に質を高める取組を行っている。事前に日常の保育場面のエピソードなどを職員が記した報告書を配付し、他クラスから読後の感想を募って全体の共有を図っており、各職員の感想からは「子どもの育ちへの感動」と「保育者としての共感」がさまざまにつづられている。また画像を素材として自由に意見を交わし、年齢や職種の枠を超えた積極的な発言を促す取組も行い、認識の深まりや新たな気づきにつなげている。</p> <p>関連評価項目(サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている)</p>
<p>★さまざまな情報発信で日々の保育と子どもの姿を伝え、保護者との相互理解を深めている</p> <p>クラス懇談会や保育参加、ブログなどを通じて園の保育や大切にしている考え方、子どもが日々見せる成長などを伝えるとともに、今年度は園内研修での学びを参考に、写真を活用した壁新聞を通じて日々の活動をわかりやすく伝える工夫を行っている。保護者限定としたブログでも折々の活動の様子が子どもたちの姿を画像とともに紹介し、保育の内容や子どもたちが日頃園で見せるさまざまな表情を保護者も楽しめるようにしている。「子育てノート(連絡帳)」などを通じた毎日の情報共有にも努め、「保護者とともに子育てをすすめる」理念の実践につなげている。</p> <p>関連評価項目(保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている)</p>

組織マネジメント分析結果

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	9/9
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	〇〇〇〇
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	〇〇
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	〇〇〇

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	4/4
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	〇〇
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	〇〇
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	7/7
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	〇〇
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	〇〇〇
3. 地域の関係機関との連携を図っている	〇〇

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	8/8
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	〇〇
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	〇〇〇
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	〇〇〇

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	11/11
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	〇〇〇
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	〇〇〇〇
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	〇〇〇〇
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	4/4
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	〇〇〇〇

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	8/8
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	〇〇〇
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	〇〇〇〇〇
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	7/7
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	〇〇〇
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	〇〇〇〇

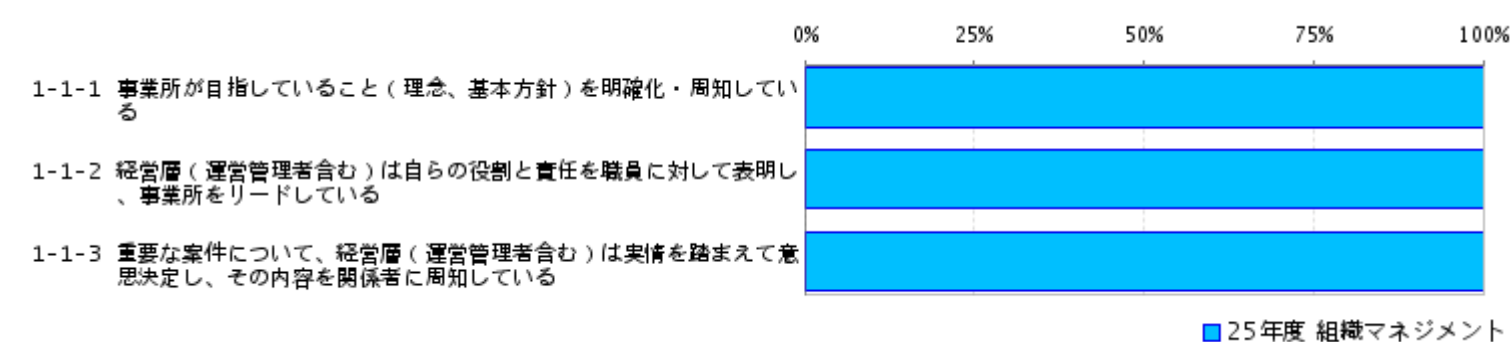
情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	7/7
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	〇〇〇
2. 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	〇〇〇〇

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
4. 事業所の財政等において向上している	
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている

リーダーシップと意思決定



<p>講評</p> <p>法人共通の保育の理念と方針・目標を定め、保護者や職員の理解を得よう努めている</p> <p>それぞれの子どもが「自分をたいせつに」思いつつ他者と認め合い、ともに生きることができる人間に育つことを願いながら「保護者とともに子育てをすすめる」ことを法人共通の保育の理念として、これを実現するための保育の方針・目標とともに、保護者には入園時の説明のほか懇談会や園便りでもその思いを伝え、職員には年度当初の職員会議や新人向けのオリエンテーションなどの機会に浸透を図っている。職員にはこれらを記載した保育課程や総合手引書「BBハンドブック」を全職員に配付し、年度当初の職員会議で読み合わせを行う機会も設けている。</p> <p>経営層の職責が明示され、これを踏まえて園長が園の統括者として職務を遂行している</p> <p>「BBハンドブック」に運営委員(各クラス代表・園長・フリー・調理)をはじめとする経営層の職責を示している。法人の拠点園として、当園で育った職員が系列各園へリーダーとして輩出されてゆくことも多いため、園の中核を担う新たなリーダー層の育成を課題としている。園長は職員の自主性を重んじる組織の風土を大切にしつつ、子どもの生命と尊厳の尊重という保育者としての基本をつねに心がけるよう職員に伝えている。また保護者には忙しい中でも「子どもがかわいいと思える」ような援助を心がけ、理念に掲げる保護者との共助・連携に努めている。</p>
--

法人・園の各単位での意思決定手順が定められ、職員と保護者に重要案件を伝えている

法人本部機構として給与等事務処理センター・研修交流センター・情報処理技術センター・事務開発室をおき、法人共通の各種事務・業務を統括するとともに、法人運営に関することは各園園長による企画調整会議で検討し、各園に下ろす流れとしている。園単位では各クラス代表・園長・フリー・調理が参加する隔週の運営委員会で検討し、常勤職員を中心とした毎月の職員会議で決定する。運営委員会の議事録は実施のつど非常勤を含む全職員に配付される。保護者には主に随時の書面配付や園便り等で重要な決定・変更事項等を伝えている。

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

標準項目	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
事業者が特に力を入れている取り組み		

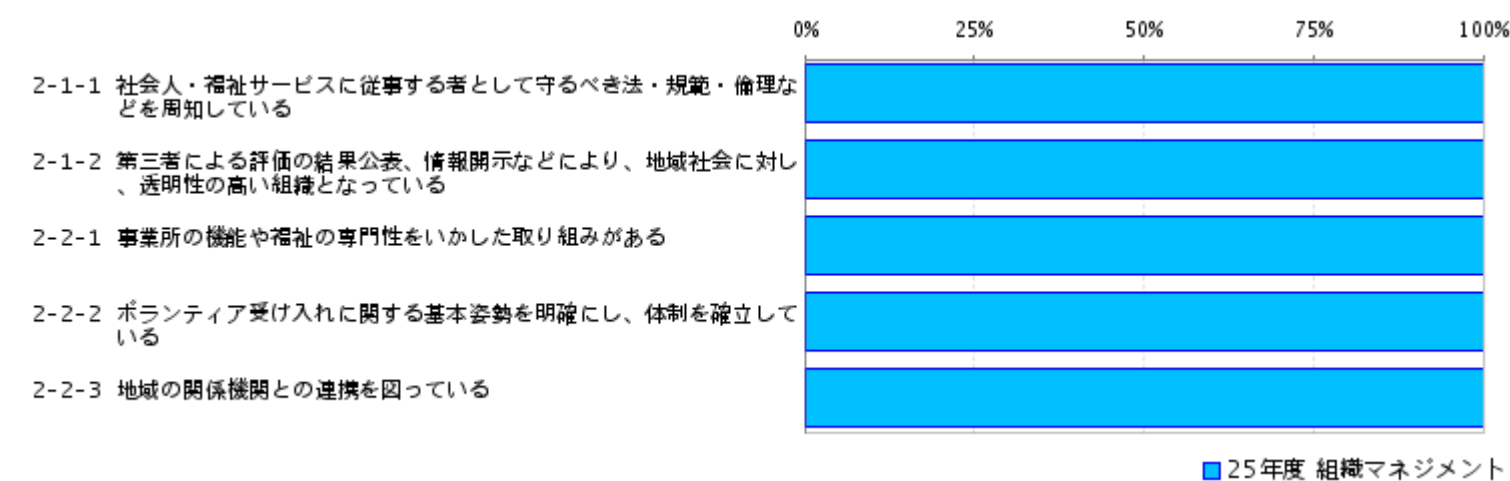
1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

標準項目	○	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
事業者が特に力を入れている取り組み		

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

標準項目	○	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み		

経営における社会的責任



講評

法人・園として職員に求める倫理規範の周知徹底に向け、さまざまな取組を行っている

「職員綱領」に子どもの尊厳・存在の尊重や保育者としての研鑽、地域や保護者との連携、主体性の発揮など 10 か条の規範を示すほか、「職員としての心がけたいこと」に社会人・職業人としての基本行動や守るべき倫理・道徳を具体的に記載している。また年度当初に「2013 年度をはじめのにあたって」として子どもへの丁寧な関わり、呼び捨ての禁止や人格尊重、接遇マナーや礼節の徹底など、より具体的に記載し、非常勤を含む全職員への配付と会議での確認を行うなど、法人・園として職員に求める倫理規範の周知と実践につなげている。

地域子育て支援センター「プレーメン」を拠点として多彩な専門性提供に取り組んでいる

地域子育て支援センター「プレーメン」で子育て・健康相談や園開放・保育所体験などを提供し、園開放では散歩、育児や手芸・食育などに関する講座・体験、保護者サークルの支援などの多彩な取組が行われている。さらに一時保育や書籍・おもちゃの貸し出し、情報紙「プレーメンの庭から」の発行、系列の「ちいさな家」との合同による育児講座など、取組は多岐にわたっている。ホームページ(HP)での発信や「プレーメンの庭から」の地域の関係機関などへの配布など情報提供も行っており、セキュリティ面に起因するHPの更新停滞が課題となっている。

地域内の各機関との連携・交流やボランティア等の受け入れを行っている

市の私立園長会で行政施策や市内の保育ニーズ等の共有、市内各園の情報交流などを行うほか、地域支援担当の職員が児童館に出向き、配慮が必要な家庭・子どもに関する情報共有を行っ

ている。また法人の理事に加わっている民生委員、地域子育て支援の保護者サークルに参加する保護者などからも地域の子育ての状況や家庭の悩みごとなどを把握できる環境にある。ボランティアは受け入れの意義・手順や流れが「BBハンドブック」に示されており、守秘義務等は他の留意事項・心得とともに書面とオリエンテーションで伝え、誓約書の提出を受けている。

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

標準項目	○ 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○ 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

標準項目	○ 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○ 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

標準項目	○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★ 園の多彩な専門性を活かし、さまざまな取組で地域の保護者の子育てを支援している</p> <p>多目的室「プレーメン」や空き保育室等を活用して展開する地域子育て支援センター「プレーメン」では、相談事業のほか週2回の園開放、年7回の保育所体験などさまざまな取組を行い、各種の講座や保育所での遊びや散歩・制作などの活動と食事の体験、発達支援などを行う保護者サークルの支援など、保育所としての専門性の発揮に取り組んでいる。年10回発行の情報紙「プレーメンの庭から」も食事や保健のコラムや利用者の育児体験記、在園世帯の投稿等の多彩な内容とするなど、園の枠を超え、さまざまな取組で地域の保護者の子育てを支援している。</p>

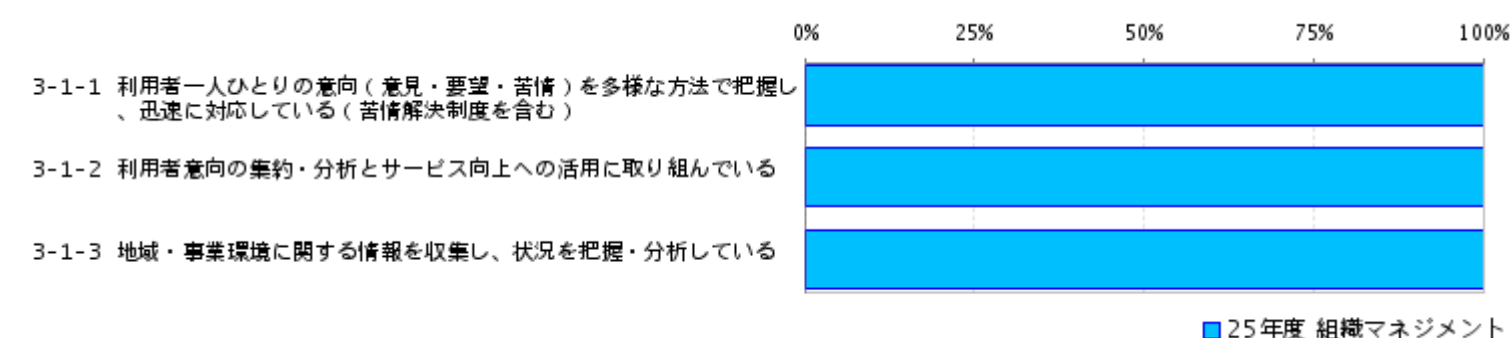
2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

標準項目	○ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○ ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○ ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

標準項目	○ 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○ 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



<p>講評</p> <p>苦情解決制度や意見箱、日常の交流などから保護者の個別の意見・要望を収集している</p> <p>苦情解決制度及び第三者委員を設置し、制度の概要や委員の連絡先等を玄関に掲示するほか、入園時に加えて毎年度当初の園便りでも伝え、HPにも掲載するなど積極的な周知に努めており、利用者調査でも例年90%以上の認識率となっている。また2箇所には意見箱「なんでもご意見箱」も事務室から見えにくい場所に置くなど、利用しやすい環境づくりに努めている。これらの仕組みを含め、日常で把握した個別の意見・要望には誠実な対応に努めるほか、開示して問題のないものはすべて書面や園便り等を通じて保護者にフィードバックしている。</p> <p>毎年の利用者調査をはじめとする複数の手段で保護者全体の意向を把握している</p>

毎年実施する第三者評価制度を準用した利用者調査に加え、保育参加時の感想募集、年度当初に行っている保育に関する要望把握のアンケートなど、保護者全体の意向・要望を把握する機会を複数設け、改善や保育の質の向上、保護者との相互理解につなげている。毎年の利用者調査では満足度や設問別の傾向のほか、自由記述で寄せられた個別意見のうち主なものに園からの回答を示し、保護者に伝えることで相互理解を深めるとともに、子どもの生活の場としての向上を保護者とともに進めていく姿勢を明示している。

地域ニーズや業界・制度の動向などの情報を運営や地域支援の企画に活かしている

子育て支援「プレーメン」利用者などから地域のニーズを把握するほか、市の私立園長会では制度・施策動向や市内の保育ニーズなどが伝えられ、毎年更新される多摩市の保育計画でも市内の保育需要の動向や各園の施設整備の予定などが示されている。保育団体の通信や刊行物などからも業界の動きを把握しており、これらの情報が法人の中・長期計画でも参考とされている。系列園の地域支援「びーだま」の閉鎖を受け、「プレーメン」の機能を強化してその役割を継承できるよう、今後検討する意向である。

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

標準項目	○ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

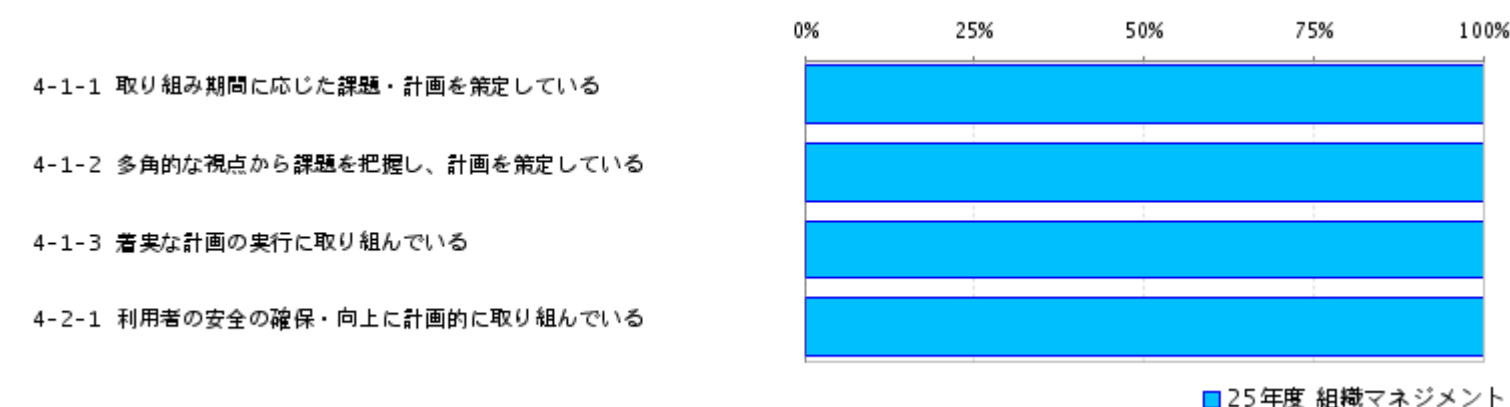
3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

標準項目	○ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	○ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	○ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

標準項目	○ 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○ 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	○ 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
事業者が特に力を入れている取り組み	

計画の策定と着実な実行



講評

長期的な観点から法人・園の課題・目標を明確にし、将来像への歩みを始めている

21年度に法人内で検討会を設置し、「大綱」の形で課題と方向性を大局的に示す24年度からの15年計画を策定している。策定にあたり職員からもアンケートで意見を募り、検討会がコメントをまとめてフィードバックしている。計画は5年の園長任期3期分とし、「組織運営」「法人」「施設整備」「財政」「保育」「共育」「地域福祉」「研修」の各テーマについて状況と課題、目標を明示している。別途、当園の園舎の立替に関する15年計画を策定しており、タイムスケジュールと資金計画を記載して、園における資金積み立てなどの目安としている。

年間の事業計画と短期活動の実行手順を定め、組織全体での園運営につなげている

園としての単年度の事業計画を定め、前年度の振り返りと年度の目標のほか、保育・安全衛生・組織運営・研修・地域支援などの各項目で年度の方針を列挙している。園長が作成のうえ所定の検討・承認手順を経て年度当初の職員会議で周知している。園内の各業務は保護者・地域・研修・環境整備・行事・福利厚生など各分野で委員会・係が定められ、常勤職員がいずれかの役割を担うこととなっているほか、行事など短期の各活動はそれぞれの担当委員会・係が順次打合せを重ね、準備と進捗管理、実施後の反省を行っている。

「安全衛生委員会」が中心となった各取組などにより、安全の維持向上を図っている

組織内の「安全衛生委員会」が中心となり、各所の安全点検や日常の事例報告と改善策の検討、各種訓練の反省などを行っており、日々のミーティングや運営委員会を通じた情報共有がなされている。また看護師が発熱・ケガ等を月次および年度の周期で集計し、保育関連の事故報道などの周知と注意喚起も行われている。今年度は災害時の一斉メール配信の仕組みを変更し、アドレスの管理や発信を専門業者を通じて行うようにし、必要な際により確実な機能発揮も図っている。

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

標準項目	○	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
事業者が特に力を入れている取り組み		

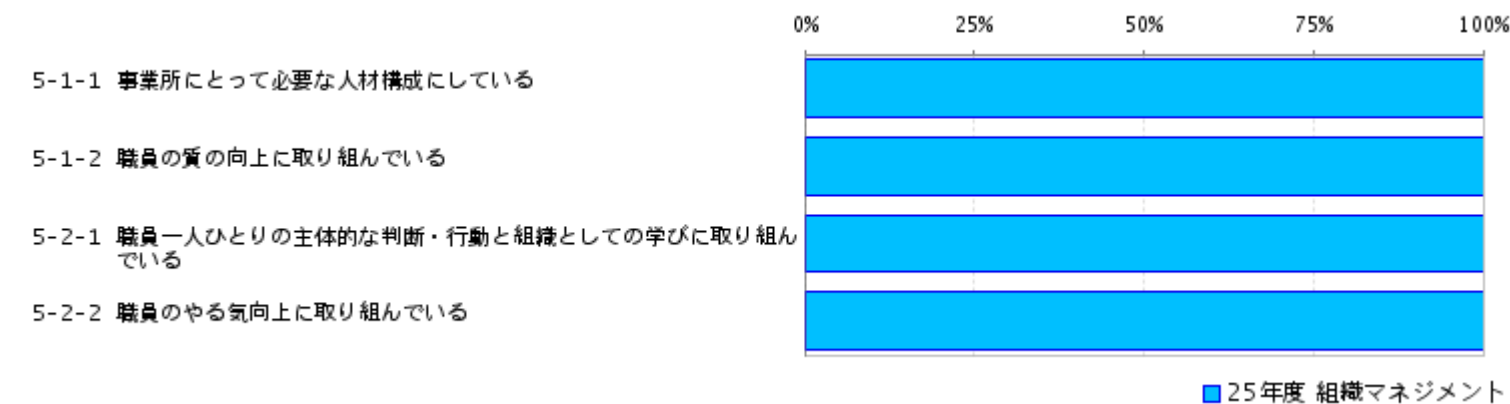
4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している
	○	事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
	○	事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み		

職員と組織の能力向上



講評

法人としての人材育成の指針が定められ、目標管理などの取組が行われている

法人の「『職員としての育ち合い』ファシリテーションプログラム」を人材育成や自己研鑽の基本指針とし、全職員による自己評価の提出と園長との面談を通じた緩やかな目標管理を行うなどの取組が行われている。法人においては新任から管理者層までの各職位に向けた研修プログラムの策定、園では面談機会の確保と各人の目標設定の精度向上が課題となっている。また園の新たな中間層・リーダー層の育成に向け、従来の各職員の自発的な研修参加のみでなく、個々に期待される成長などを踏まえた計画的な資質向上についても、検討の余地はあると考えている。

内外の研鑽機会の活用により、各職員が専門性を高め、見識を深められるようにしている

自治体・関係団体等の研修に各職員が参加し、保育や食育、カウンセリングなどの専門性を高めるほか、法人内の「ちいさな家」または系列全園合同での研修を設け、外部講師も活用して保護者との関係づくりや表現・創作、農業体験などについて研鑽を積んでいる。研修受講後には報告書の配付によって成果共有を図っており、報告書は記入欄を感想・職場へのフィードバック・特記すべき内容の3つに分け、記録者が要点をまとめて記すようにし、資料も必要な部分を抜粋して併載することで、より参照・共有がしやすいよう工夫をしている。

職員が働きやすく、やる気を持って職務にあたることのできる組織づくりに努めている

非常勤職員の活用によって常勤職員の事務作業時間を保障し、業務負担の軽減を図るほか、各種共済や職員の互助会による慶弔費・懇親会費等の補助などが設けられている。また各職員の貢献や美点を積極的に評価するとともに、必要な際には始末書の提出を課すなど、公平な信賞必罰を心がけて信頼関係維持ややる気向上につなげている。いわゆる業績評価と処遇との連動については法人の方針として行っていないが、今後リーダー層の育成や新たな成長段階・職階を構築していくうえで、責任に応じた手当制度等も検討の余地はあると考えている。

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	○ 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○ 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している
	○ 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている
	○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
事業者が特に力を入れている取り組み	

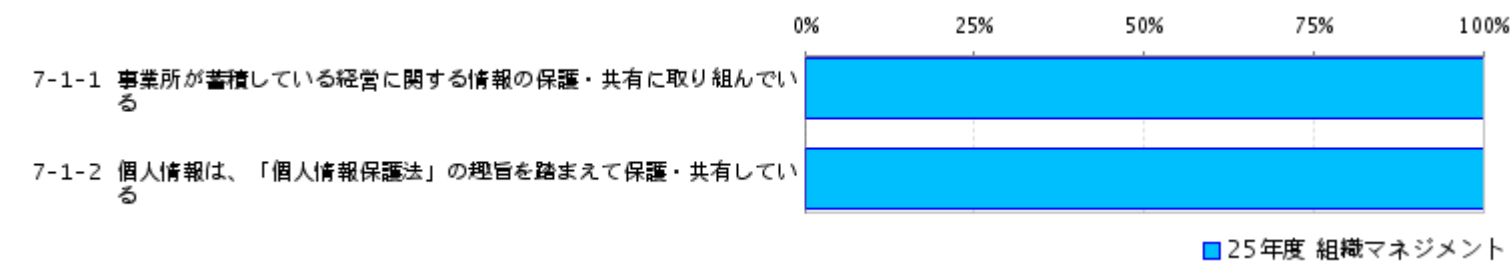
5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

標準項目	○ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

標準項目	○ 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	

情報の保護・共有



講評
権限に応じたデータアクセスの制限と部外者による文書情報への接触防止を図っている
PCは事務室・職員室に計7台設置され、各室及び全体の3つのLAN管理がなされている。各PCのアクセス管理は各台固有およびLAN接続時のパスワードによって行い、権限に応じたアクセス制限をしている。機密性の高い文書情報は事務室で管理しており、不在にする際や毎日の閉園時には事務室に施錠することで部外者の立ち入りを防ぐとともに、警備会社のセキュリティ監視もな

されている。各書類は保管・廃棄の年限が定められ、これに基づいて年度ごとに更新している。

保護者に個人情報の用途を示し、子どもの肖像等の利用に関する意思確認を行っている

個人情報の利用目的は保護者記入の様式に記載されているほか、HPや取材など対外的な発信媒体での子どもの肖像の利用、登降園時のチェック表への記入及び園内での写真掲示については、それぞれ書面で意思確認を行っている。開示請求への対応については規程に示されており、請求や決定通知の様式も整備しているが、保護者へのより積極的な周知も検討を期待したい。また「個人情報の適切な取り扱いに関する基本方針」についても、保護者等への明示を検討されたい。

職員及び関係者の個人情報保護の徹底について、啓発の仕組みを整えている

個人情報保護の徹底について、全職員必携の「BBハンドブック」に「個人情報の取扱い、電子情報の取扱いについて注意してほしいこと」を記載、保護者との会話や事務作業中の遵守事項など、日常業務における留意点を示しているほか、「文書・書類に関する個人情報保護」として、日常の業務で主に使用する各書式に関する記入時の注意点や保管・廃棄上の原則、データ情報の園外持ち出し禁止などを明記している。実習生・ボランティア等には受け入れ時に書面とオリエンテーションによって徹底を促し、誓約書の提出を課している。

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

標準項目	○ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
事業者が特に力を入れている取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

カテゴリー1～7に関する活動成果

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
安全面の向上や職員の倫理規範の徹底を促すための取組を行っている
災害時の一斉メール配信の仕組みを変更し、アドレスの管理や発信を専門業者を通じて行うようにし、必要の際のより確実な機能発揮を図っている。また園全体の通用門として利用されている東門に暗証番号式の鍵を設置し、不正侵入対策の強化を図っている。
また年度当初に職員への倫理規範遵守に向けた啓発を行っており、利用者調査で寄せられた保護者の意見なども踏まえ、子どもへの丁寧な関わりや呼び捨ての禁止・人格の尊重、保護者との接遇マナーや礼節の徹底、共感・受容など、職員に求める行動や考え方の基本を明示した「2013 年度をはじめのにあたって」を配付し、会議で確認する取組を実施している。

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
各職員の知見を園全体の質の向上につなげ、業務負担の軽減にも努めている
半期ごとに「ちいさな家」と各クラス合同で行う保育の振り返りで、具体的な保育実践に関する話し合いを通じた組織的な質の向上を図っている。画像も素材に活かして年齢や職種の枠を超えて自由な発言を促し、認識を深めたり新たな気づきを得たりすることができるようにしている。また事例検討会を年2回の計画で実施し、第1回は保護者対応について、かみつき発生時の保護者への伝え方について職員間で話し合い、次年度の方針に向けた最善の方法について検討した。また乳児・幼児各グループで毎月行う月間計画の検討会議の中でも直近の保育のエピソードが書面で報告され、可能な場合はそれについて話し合いも行うなど、各職員の気づきや課題認識を共有し、組織全体の英知に結実させる取組を活発に行っている。また処遇の面でも、非常勤職員を活用して常勤職員の事務作業の時間を保障し、業務負担の軽減につなげる配慮を行っている。

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
情報管理や保護者への情報提供、安全対策などの面で改善を行っている
情報管理の面では各書類を所定の保管・廃棄の年限に基づいて適宜処理するほか、年度の更新に伴う移動などを行い、活用と検索の利便向上を図っている。

保育面では、保育の質向上に向けた取組の中で、内部の研修で他園見学の際に知り得た事例を参考に、壁新聞によってクラスの日々の様子を写真も活用して保護者にわかりやすく伝えるよう工夫したほか、昨年度の利用者調査などで得られた意見に基づき、「パオパブまつり」の日程変更を実施したほか、土曜日の南門の施錠の実施、東門への暗証番号式錠の設置を行い、不正侵入防止の強化を図るなどの改善を行っている。また系列の「ちいさな家」の体制変更に備える意味もあり、見学者・来訪者向けのパンフレットの見直しを行って掲載情報の一部を修正している。

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へに向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
計画的な財務管理が図られ、施設再生に向けた積立金の確保もなされている
園舎建て替えに向けた資金積み立てが経年の課題となっており、計画のもとで今年度は非常勤職員の採用確保に向けた方策として賃金計算のあり方を見直し、経過措置を設けて移行を図った。24年度末決算において積立金が確保され、緊急性の高い問題は生じていないものと考えられる。

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
さまざまな手法で保護者の要望や意見を把握し、種々の改善に結び付けている
日常の交流及び苦情解決制度などを通じた個別の意向把握、年度当初に行う保育に関するアンケートや毎年の利用者調査など、さまざまな手法で保護者の要望や意見を収集しており、行事の日程や安全面への懸念を踏まえた東門の暗証番号錠設置、園で行う放射線測定の結果の園便りへの掲載など、種々の改善に結び付けられている。

サービス分析結果

サービス提供のプロセス項目

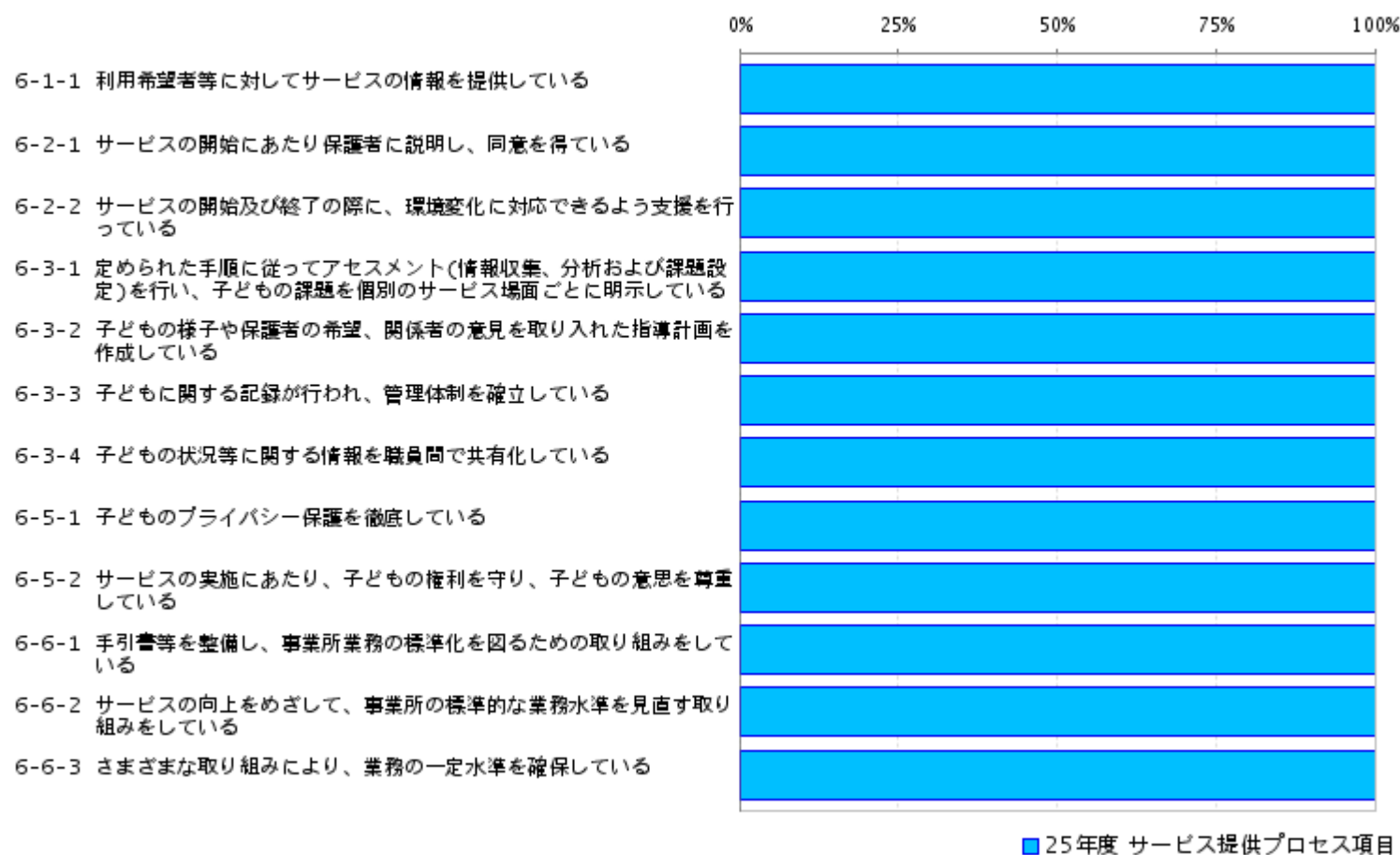
サービス情報の提供	4/4
1. 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	〇〇〇〇
サービスの開始・終了時の対応	6/6
1. サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	〇〇〇
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	〇〇〇
個別状況に応じた計画策定・記録	12/12
1. 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	〇〇〇
2. 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している	〇〇〇〇〇
3. 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	〇〇
4. 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	〇〇
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	7/7
1. 子どものプライバシー保護を徹底している	〇〇
2. サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	〇〇〇〇〇
事業所業務の標準化	11/11
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	〇〇〇
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	〇〇〇
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	〇〇〇〇〇

サービスの実施項目

サービスの実施	37/37
1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	〇〇〇〇〇
2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている	〇〇〇〇
3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	〇〇〇〇
4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている	〇〇〇〇
5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	〇〇〇〇
6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	〇〇〇〇〇
7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている	〇〇〇
8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	〇〇〇〇〇
9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している	〇〇〇

評点の内容

25年度 サービス提供プロセス項目



サービス情報の提供

講評
<p>今年度一部見直しを行ったパンフレットやホームページを通して園の情報を提供している</p> <p>見学者等に手渡すパンフレットにはデイリープログラムや年間行事のほか、保育の方針や食事サービスの特色などの情報を掲載している。26年度からバオバブ保育園ちいさな家(以下「ちいさな家」)が「バオバブちいさな家保育園」に移行し、全年齢の受け入れを開始することに伴い、これまで2園共通だったパンフレットを見直している。また法人共同のホームページ(HP)では園の保育の特色や地域支援事業などを伝えるほか、室内環境を写真で紹介しているが、日々の活動の紹介についてはセキュリティ面に起因する更新停滞の解決が待たれる。</p> <p>行政や地域資源を活用した情報発信を行い、市内・地域内での広報につなげている</p> <p>パンフレットは市役所の窓口に設置して窓口を訪れた方がいつでも入手できるようにしているほか、市主催の保育所合同説明会に参加して説明等を行ったり、市発行の保育所案内に情報を掲載するなど、さまざまな媒体で園の広報を行っている。また地域子育て支援の活動を通じ、年10回発行する子育てセンター便り「プレーメンの庭から」を地域の健康センター・児童館・公民館に置いてもらうなど、地域の社会資源も活用した情報発信にも取り組んでいる。</p> <p>園見学では園の特色を伝えるとともに、子育ての支援の機会としても活用している</p> <p>見学の希望は電話で予約を受け付け、日時については土曜日以外の平日を原則とし、希望者の都合を踏まえて柔軟に対応するようにしている。受け入れ時にはパンフレットに沿って保育の考え方や特色、食へのこだわり、退園後の支援の継続性などについて担当者が丁寧に説明することを心がけるとともに、園内の案内を行っている。また要望に応じて子育て相談に応じるなど、育児への不安や悩みの解消にもつながるよう配慮しながら、園に対する理解を深めてもらうようにしている。</p>

1-1. 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している

標準項目	○ 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○ 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
事業者が特に力を入れている取り組み	

サービスの開始・終了時の対応

講評
<p>「入園のしおり」に沿って重要事項等を説明し、同意の確認を行っている</p> <p>入園説明会では園長・副園長・保健担当が「入園のしおり」に沿って利用開始に必要な情報を保護者に説明しており、布団カバーなどの全年齢共通の持ち物については理解しやすいように現物を掲示している。説明後に質疑応答を行い、入園に際しての同意の確認としているほか、入園後に「HP・雑誌取材等写真掲載に関する調査」で写真の取り扱いについての意思確認を行っている。</p>

個人面談で子どもの状況や保護者の意向の把握に努めて個々の支援に活かしている

入園に際して保護者ごとに個人面談を行い、保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」をもとに担任が睡眠・排せつや予防接種・罹患状況などの子どもや家庭の状況、保護者の意向を把握し、「個人面談記録」に記録している。またアレルギー等の個別の配慮が必要な場合は後日、保健・調理・担任が面談を行って状況を確認するなど、個別の支援に向けて必要な情報の把握に努めている。これら新入園児の情報は職員会議で共有を図り、保育開始に備えている。

入園時には子どもの負担軽減に努め、利用終了後の継続的な見守りにも取り組んでいる

入園直後の子どもの負担に配慮し、保護者の就労状況や子どもの状態などに応じて保育日数・時間を調整し、徐々に長時間保育に移行するほか、0歳児には登園初日に保護者と一緒に半日保育を体験してもらい、不安やストレスの軽減につなげている。卒・退園後には年1回発行する「バオバブ通信」を全OB・OGに送付して園の近況を報告するほか、「プレイデー(運動会)」等の園行事の案内状も送付している。また「中学入学を祝う会」「二十歳を祝う会」など独自の機会を設け、園を巣立った子どもたちの成長を継続的に見守っている。

2-1. サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
事業者が特に力を入れている取り組み	

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

標準項目	○ サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
	○ サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

個別状況に応じた計画策定・記録

講評
<p>子ども一人ひとりの家庭状況や発達状況を把握・記録している</p> <p>児童票には心身の発達状況を記録しているほかに入園時の面談内容(成育歴や生活リズム、離乳食・食事の状況、アレルギー、健康状態)を個人の情報として記録し、入園直後の「慣れ保育」や育児に関する保護者の意向などを聴き取っている。「保健調査票」には健康に関わる情報・健診記録・身体測定記録・感染症・予防接種の状況などを記録している。また年度当初の保護者アンケートで子どもの情報や家庭の伝達事項、休日の親子の過ごし方・家庭の子どもの楽しむ姿・園への要望などを記入してもらい、家庭での姿を把握している。</p> <p>保育課程に基づき、各指導計画の作成・実践と必要に応じた個別支援を行っている</p> <p>「BBハンドブック」や保育課程をもとに年間指導計画を策定し、年度当初の職員会議にて職員参画のもと、クラス別年間保育計画を共有し、保育内容をより深めるために質疑応答も含め全体で検討している。年間指導計画をもとに月案や週案が策定され、0～2歳児では月単位で個別指導計画が、3歳以上児で個別配慮が必要な子どもには個別記録を取るようにしている。また計画の内容は保育会議で検討し、ブロック会議や職員会議で報告することで職員間の子どもの状況の把握と日々の保育につなげている。</p> <p>子どもの支援に向けて職員間の情報共有と保護者との共通理解に努めている</p> <p>年間や月の計画に子どもの育ちの推移を反映する取組として、年に2回系列園が集まり、クラステーマや年間のねらい・配慮についての中間と年度末の振り返りを行い、映像も活用して子どもの姿やエピソードを報告・発表をして、次年度に活かしている。年度初めの懇談会では目標や年間計画・クラステーマなどを口頭で説明するとともに、書面でも配付をしている。日々の計画に変更が生じた場合は昼会議(10分間ミーティング)にて伝達がなされ、職員間での情報を共有する仕組みを整えている。</p>

3-1. 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

標準項目	○ 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
	○ 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-2. 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している

標準項目	○ 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
	○ 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を保護者にわかりやすく説明している

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している ○ 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-3. 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある ○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
事業者が特に力を入れている取り組み	

3-4. 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している ○ 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
事業者が特に力を入れている取り組み	

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講評
<p>個人情報やプライバシーの保護に向けた取組と、羞恥心への配慮をしている</p> <p>「入園のしおり」で園内での個人情報の取り扱いについての方針を示し、保護者と同意を交わして意思確認をしているほかに、ホームページや雑誌取材掲載に関する調書やクラス連絡網用番号届けには毎年保護者承諾を得ることとしている。子ども達のプライバシーや羞恥心の配慮に向けて、幼児トイレには扉を設置し、閉め忘れないように口頭でも声かけをしている。夏期のプール遊びでは着替えは室内で行い、プールはタープを張り、外部からの視線を防ぐための配慮をしている。</p> <p>「BBハンドブック」や保育課程の周知を図り、子どもを尊重した保育実践に努めている</p> <p>保育課程や法人系列園共通の職員の倫理規範や保育・業務実践上の基本的な心得等を示す「BBハンドブック」に子ども一人ひとりを尊重する基本姿勢を示し、年度当初の職員会議では資料配付と説明でこれらの規範について再確認と認識の共有を図るほか、保育課程の読み合わせを行って子どもと接する際の言葉遣いや対応について全職員で確認し合い、一人ひとりの子どもを尊重した支援につなげている。また2歳児までは個人別の計画・記録を作成、3歳以上児にも必要に応じて個別に配慮の記録を取るなど、特性や発達を踏まえた援助に努めている。</p> <p>虐待の早期発見や的確な対応に向け、手引書等の活用や職員の啓発に取り組んでいる</p> <p>虐待防止に向け、「BBハンドブック」に早期対応について記載するほか、多摩市の「子どもの虐待対応マニュアル」も活用するなどして早期発見の徹底を図っている。朝の受け入れ時の視診から傷や衣服の乱れなど虐待の予兆を把握するようにし、疑いがある場合には関係機関に速やかに通告することとなっている。職員の虐待に関する研修参加と報告による成果共有も行われているが、虐待についての理解を深める勉強会等の実施や園独自のマニュアル整備については課題として認識しており、今後の取組が期待される。</p>

5-1. 子どものプライバシー保護を徹底している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○ 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている
事業者が特に力を入れている取り組み	

5-2. サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している ○ 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている ○ 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている ○ 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している ○ 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

事業所業務の標準化

講評

「BBハンドブック」などの整備やリーダー層の指導による業務水準の確保に努めている

法人系列園共通の職員が守るべき倫理規範等を明示した「BBハンドブック」のほか「保健マニュアル」を整備し、非常勤を含む全職員に配付するとともに、事務室や各クラスに常備して常時活用できるようにしている。新規採用の常勤職員には法人の入職前研修、入職後は年度当初の園の職員会議で「BBハンドブック」等の読み合わせを行い、職員に求める基本的な認識や実践手順等の浸透を図り、現場での徹底につなげるほか、日常保育ではクラスリーダーが適宜助言し、必要に応じてクラス会議に園長・副園長が参加して指導を行っている。

業務やマニュアルを見直す際に職員の気づきや保護者の意向を反映している

業務等の見直しは主に年度末に行い、今年度は「ちいさな家」の全年齢受け入れ開始に備え、今まで共通で使用していた「入園のしおり」等を個別化した。職員の意見も改善に活かし、「慣らし保育」や年齢ごとの持ち物について見直しを行ったほか、内部の研修における職員の気づきをもとに、写真を活用した壁新聞によって日々の活動を保護者にわかりやすく伝える工夫をしたり、利用者調査での意見などを参考に「バオバブまつり」の日程変更や門の電子錠化による安全面の強化を図るなど、保護者の意向も活かすようにしている。

安全衛生委員会が中心となって、園内外の安全確保に取り組んでいる

園長・副園長や各職域(乳児・調理・保健)の代表で構成される「安全衛生委員会」が中心となり、さまざまな取組によって園内外の安全を確保した保育提供に努めている。「自主検査チェック表」「園庭チェックリスト」によって園内・園庭の安全確認を行うほか、「安全管理点検票」に基づいて園内の危険箇所などを看護師が月1回確認している。また毎月実施される避難訓練の反省や非常時の体制の話し合いを行ったり、ケガ・事故の程度に応じた「ヒヤリハット」「インシデント」及び事故についての報告をもとに、対応策について検討・決定している。

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

標準項目	○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	○ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
事業者が特に力を入れている取り組み	

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

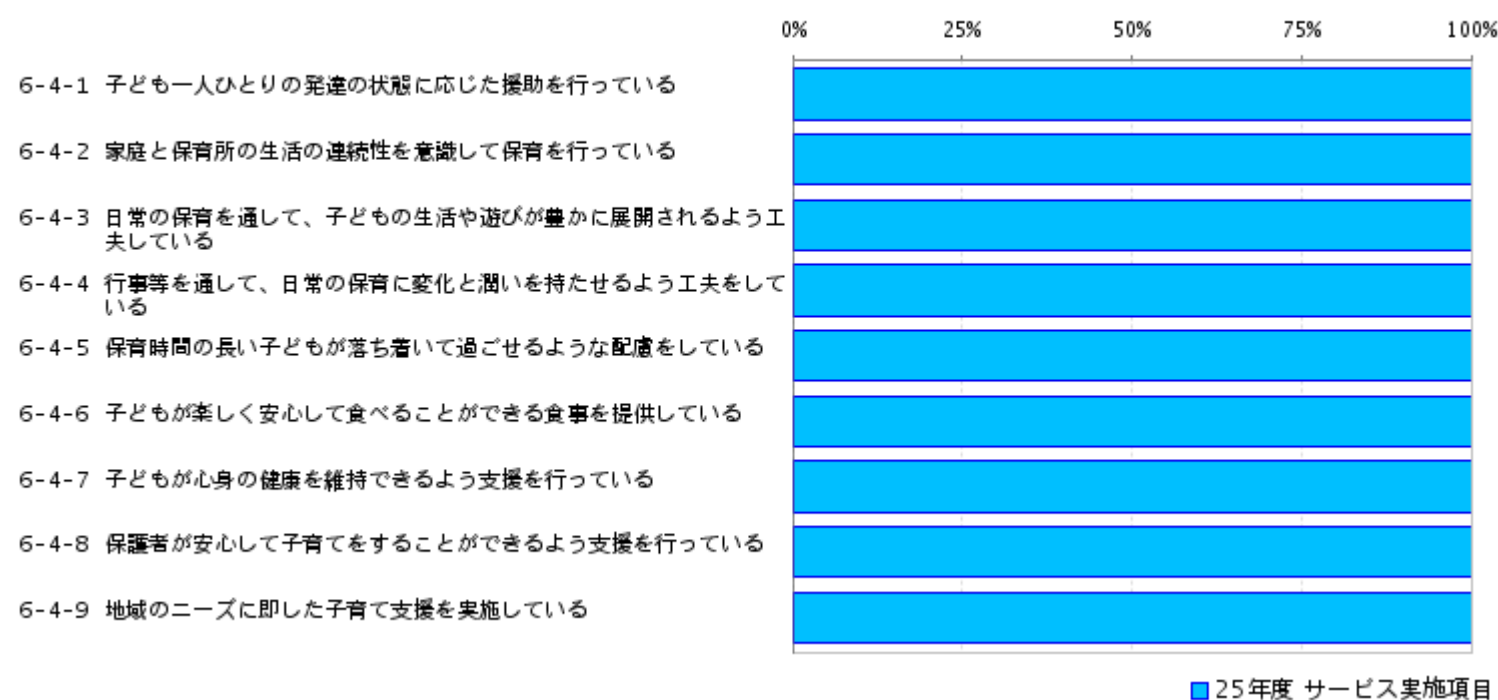
標準項目	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
	○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★年2回の保育の振り返りが、保育や子どもの育ちへの各職員の認識をさらに深めている</p> <p>系列の「ちいさな家」と合同で行う半期ごとの保育の振り返りでは、保育実践に関する写真も活用した具体的な話し合いを通じて、組織的に質を高める取組を行っている。事前に日常の保育場面でのエピソードなどを職員が記した報告書を配付し、他クラスから読後の感想を募って全体の共有を図っており、各職員の感想からは「子どもの育ちへの感動」と「保育者としての共感」がさまざまにつづられている。また画像を素材として自由に意見を交わし、年齢や職種の枠を超えた積極的な発言を促す取組も行い、認識の深まりや新たな気づきにつなげている。</p>

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

標準項目	○ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	○ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	○ 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている
	○ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	○ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
事業者が特に力を入れている取り組み	

サービスの実施

25年度 サービス実施項目



1. 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている

講評
<p>子どもの全体的姿を把握し、主体的に活動できるよう環境構成を工夫している</p> <p>入園時に把握した情報や日々の保護者との会話・連絡ノート・保育日誌、児童票などにより、子どもの発達状況や家庭での様子を職員で周知し、支援に役立てている。子どもが主体的に活動できるように0歳児及び1歳児においては、個別の成長や発達の状況に応じてクラス内で緩やかな小グループに編成し、それぞれのグループにおいて活動や環境構成を工夫するなど、個々の発達や成長に細やかな配慮が行き届くよう工夫している。各保育室は子どもの発達を考慮した遊具が取り出しやすい位置に置かれ、子どもが自主的・自発的に遊び込める環境となっている。</p> <p>楽しく行う異年齢の活動を通じ、自発性やいたわり・成長への憧れを培っている</p> <p>異年齢交流としてプレイデー(運動会)後に3～5歳児を5グループに分け、遊びや食事、昼寝などの活動をともにすることで、子ども同士のふれ合いの中で年上の子への憧れや年下の子への思いやりを育み、年齢相互の育ち合いにつなげている。また外国へ移住した子どもに手紙を書いたり、ホールに世界地図の本を置いて、子どもが日常的に外国への興味が抱けるようにしている。当番活動は小動物の飼育を通して自ら楽しんで行う姿が見られ、4歳児はうさぎ、5歳児はチャボの小屋の掃除や餌やりなどを行い、命の大切やいたわりの心を培っている。</p> <p>個々の子どもの特性に即した支援や子ども同士のトラブル等への対応を行っている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもとのコミュニケーションとして、家庭で採り入れている方法を積極的に園で行うなど、家庭と園が連携を図ることでクラス全体での子どもへの支援と、助け合う心を育む取組となっている。配慮内容等についてはクラス会議で子どもの状況を話し合い、担任間での関わり方の確認を行い、個々の特性や状況に応じた配慮と適切な支援を図っている。子ども同士のトラブルについて、ケガやかみつきなどの場合は原則として園の責任として状況や子どもの心情等を丁寧に保護者に説明することとしている。</p>

標準項目	○ 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
	○ 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している
	○ 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している
	○ 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
	○ 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
事業者が特に力を入れている取り組み	

2. 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている

講評
<p>保護者との毎日の連携に向けた仕組みを整え、子どもや家庭との様子を共有している</p> <p>登園時には「登降園記録簿」に登園までの家庭での子どもの様子(食事・排せつ・睡眠等)を記入してもらい、可能な限り直接職員が口頭で子どもの変化を聞き取りながら、保護者と子どものやり取りなどを通して家庭での様子を把握するように心がけている。「子育てノート(連絡帳)」には毎日の子どもの様子を記入して家庭からも食事や排せつ、家庭での状況などを記入してもらい、園と家庭での生活内容を共有することができ、子どもが心身ともに安定をした生活を過ごせるようにしている。</p> <p>子どもが生活習慣を確立するため、一人ひとりに合わせて支援することに努めている</p> <p>一人ひとりの食事・排せつ・着脱などの基本的な生活習慣の確立に向け、「子育てノート」や個人面談、日々の保護者とのコミュニケーションによって発達状況を伝え、家庭との連携を図っている。食事に関しては乳児から主食・副食・汁物を目の前で配膳して、味覚の確立と手づかみ食べなどで食べる意欲を育てている。箸は2歳児クラス後半から遊びの中で練習し、3歳児クラスでは持ち方</p>

が安定している子どもから使用している。また排せつの自立に向けて1歳半を目安に子どもたち個々のサインを受けとめ、トイレに座れるように声かけをしている。

生活状況と子どもの発達を考慮した休息と午睡のための配慮をしている

子どもの心身の状況や生活リズムに配慮した休息・午睡への環境作りとして、0歳児クラスに畳のコーナーを設置しているほか、各クラスとも午睡時にはカーテンで外光を遮り、落ち着いて眠れる環境が整えられている。職員は子どものそばで優しく入眠を促すなど個別に対応し、早く起きた子どもや寝付けない子どもは無理に寝かせることなく、子どもの体調や保護者の要望に合わせた個別の支援を行っている。また5歳児に関しては1月を目処に昼寝ではなく休息の時間として、静かに身体を休めるよう促すなどの支援をしている。

標準項目	○ 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
	○ 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている
	○ 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
	○ お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み	

3. 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

講評

子どもの興味や意欲を尊重し、遊びの連続性に配慮して自主性・自発性を促している

園の目標を反映した年間指導計画に基づき、毎月のクラス単位の月案や個人別指導計画によって子どもの成長状況や興味、意欲を促す保育内容を計画している。子どもの自主性や自発性を大切にするために、子どもの意欲や興味を見ながらカリキュラムを具体化するとともに、前日の活動や子どもの意欲などの連続性を意識して計画策定している。保育会議や職員会議において子どもの姿や活動の連続性や継続性、興味や活動の発展等を意識して意見交換等を行い、玩具や家具の内容や種類・位置などの環境構成にも反映している。

子どもの集団活動への主体的な関わりを促す工夫を行っている

0歳児は緩やかな担当制、1歳児は生活リズムによる小グループ行動、2歳以上児では活動によって少人数のグループ活動など、成長や発達、活動や目的等に合わせて集団構成するなどの配慮を行っている。子どもが楽しく集団活動に参加する取組として、日々の保育から無理強いせず、自ら興味を持つような声かけや、朝の自由遊びや日々の活動の中からもまご・ごっこ遊び、ゲーム遊びなどが展開され、子どもの発想や欲求を引き出し、友だち関係の構築につなげられるよう配慮している。

子どもが自然に親しみ、季節の移ろいを感じられる活動を支援している

近隣のさまざまな公園や神社など身体を存分に動かしたり、花や虫、木々や風など四季の移り変わりを感じることができるよう積極的に戸外に出かけている。園庭にはドングリやキウイ・リンゴ・夏ミカン・ビワ・柿など季節を感じられる木々が植えられており、収穫を心待ちにして日常生活で季節を感じられるようにしている。幼児クラスは年4回程度、お弁当を持って遠足にでかけているほか、遠くの公園まで歩いて出かけたり、バスに乗って子どもの国や乗り物博物館に行くなど、年間を通してさまざまな体験を行っている。

標準項目	○ 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている
	○ 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
	○ 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
	○ 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
事業者が特に力を入れている取り組み	

4. 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている

講評

子どもが主体的に関われるような行事の取組が行われている

「バオバブまつり」では年長児が和太鼓を野外ステージ上で披露して、挑戦意欲とともに達成感を感じる取組としている。「プレイデー(運動会)」では順位をつける競技ではなく、遊びを中心として親子で楽しんでもらいたいという一日としている。乳児は日頃から慣れ親しんでいるわらべ歌を採り入れ、内容を事前に保護者にお知らせをすることで親子ともに楽しめるような配慮がある。幼児は「遊びの会」などを通して、子どもの好きな遊びを見つけ計画をする中で子どもの意見を採り入れた内容にするなど、子どもが主体的に関われるような行事としている。

子どもが参加して楽しめるさまざまな行事を年間を通して行っている

年間を通して季節に応じた行事や多彩な取組を行っている。行事の計画にあたっては子どもに問いかけ、仲間と相談をしながら意欲的に進めていけるような関わりを大切にしている。年長児の園外合宿では、何をしたいかを問いかけたり、キャンプファイヤーを楽しんで行えるような内容を子どもと考え、思い出深い時間となるように計画をしている。食事は子ども同士が役割分担をして作って楽しむなど、親元を離れ、日頃の保育では経験できない自然体験を行うことなどを通して子どもの自立を促すなど、行事の取組を子どもの心身の成長発達につなげている。

行事実施にあたって保護者の理解を得るとともに、さまざまな人との交流を体験している

行事予定についてはクラス便りを通して内容を説明することで、保護者への理解を深めている。合宿や「お泊まり会」などについては事前に懇談会を開き、ねらいや内容などを詳しく説明すること

で、保護者が不安を感じないような配慮がなされている。地域の方とともに楽器を身近に触れる機会を設けたり、演奏会や「昔遊びの会」では祖父母とともに遊びを共有するなど、子どもがさまざまな人たちとの関わりを体験することで、子どもの興味や意欲を促し、豊かな体験につなげている。

標準項目	○	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している
	○	子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している
	○	行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている
	○	保育所の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している
事業者が特に力を入れている取り組み		

5. 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

講評
<p>長時間にわたる保育のために、子どもの生活リズムや心身への配慮をしている</p> <p>晴れた日は戸外に出かける活動を積極的に行い、天候不良などで室内で過ごす場合は職員間で連絡を取り合い、部屋を変えるなどして気分の切り替えができるようにするなど、長時間を過ごす子どもの生活にメリハリをつけている。延長保育時には日中の保育室とは違う場所で過ごして気分転換を図り、好きな遊びや絵本を読むことができるようにしている。また保護者を待つ気持ちを受けとめ、保育士の膝に抱いたり、カーペットや畳などに横になりリラックスできる環境作りに努めるなど、一人ひとりの子どもが負担なく、落ち着いて過ごせるように配慮している。</p> <p>異年齢の子どもが長時間の保育を楽しく過ごせる工夫に取り組んでいる</p> <p>行事や日常保育で活動や状況に応じて異年齢児が交流や親交を深められる機会を作っている。延長時間以外でも幼児が乳児の部屋に出かけたり、テラスで共に遊ぶ姿も見られ、年齢を超えた関わり合いが自然と行われている。延長時間帯は静的な遊びを中心に、子どもの好きな遊具を選定して幼児の好きな遊びを年下の子が見て真似をしたり、遊具や絵本などで幼児が年下の子に関わっている姿なども見られるなど、保育士が仲立ちをしながら異年齢での関わりを深め、子どもがお迎えを待つ時間に安心して過ごせるような雰囲気づくりの配慮と工夫をしている。</p> <p>降園時の保護者への情報伝達や職員間の連携に向け、仕組みを整備している</p> <p>子どもの様子や家庭からの連絡は各個人の「子育てノート」、「登降園記録簿」及び早番・遅番保育の担当職員が保護者との会話で得た子どもの情報をミーティングメモに記録し、把握しているほか、クラス担任からの伝達事項についてもミーティングメモを活用し、担任自ら伝えなければならない案件については必ず担任が直接連絡を取るようにしている。また3～5歳児では玄関ホール掲示板に毎日の保育活動の様子を壁新聞として掲示し、お迎え時に確認できるように工夫がされている。</p>

標準項目	○	保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている
	○	年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている
	○	子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる
	○	お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている
事業者が特に力を入れている取り組み		

6. 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

講評
<p>安全、安心を心がけた食材と楽しく意欲的に食事を摂れる配慮をしている</p> <p>乳児は緩やかな担当制を取り、食事が落ち着いて摂れるように小集団での関わりをしている。個別に声をかけながら、目の前で配膳をして子どもの嗜好や喫食状況などを把握したり、食具の持ち方や食事のマナーなど個々に関わることで、よりきめの細かい配慮がなされるようにしている。献立は和食中心でだしや素材の味を大切にし、米は農家と提携をしており、定期的に写真掲載のお便りなどが送られ、掲示がされているほかに、食材の放射能の数値や収穫元などの掲示もされ、子どもや保護者に安心・安全な食の提供ができるよう配慮している。</p> <p>食材や献立の工夫や多彩な行事食などの工夫がなされている</p> <p>日本の伝統的な行事や旬の食材を楽しめるような献立の工夫や取組が行われている。ひな祭りにはお雛様の形をしたちらし寿司、子どもの日には「鯉のぼりハンバーグ」など、視覚でも味覚を楽しんでいる。新米の会では飯ごうでお米を炊き、炊き上げる過程での音を聞いて期待感を高めたり、「さんまの会」では事前に魚の食べ方などを知らせ、炭火で焼いた魚をより意欲的に食べられるような促しにつなげるなど、さまざまな食の体験をすることで、子どもが食に対してより興味を持ち、意欲的になるような食育活動を展開している。</p> <p>アレルギー対応や離乳食など、個別状況に応じた食事の提供をしている</p> <p>離乳食開始時は離乳食の目安表を基本に個々の咀嚼や発達状況に合わせて対応している。段階が進む時には形状や内容が記されている「離乳食カード」を渡し、園と家庭で連携を取りながら進めている。食物アレルギー児の対応は医師による「食物アレルギー除去食の指示書」を提出してもらい、調理・保健・担任で面談を行い、具体的な除去食の確認をしている。アレルギー対応については年間の振り返りの機会に再度の確認を職員間で行い、より安全な対応の周知徹底を図っている。</p>

標準項目	○	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している
------	---	------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ○ メニューや味付けなどに工夫を凝らしている ○ 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している ○ 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている ○ 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている
事業者が特に力を入れている取り組み	

7. 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている

講評
<p>日々の保育の中で子どもの意識付けを行って、ケガや感染症予防に努めている</p> <p>散歩前には必ず約束事を子どもに伝えてから出かけている。散歩途中や散歩先の公園で発見した危険物(ハチ・毛虫)・箇所は昼ミーティングで共有して注意をしている。また避難訓練時には「おかしも(押さない・駆けない・しゃべらない・戻らない)」の話をして避難時の約束事を伝えるほか、年2回実施する交通安全教室を通して危険防止についての意識付けを行っている。また感染症予防に向け、2歳児から手洗い、3歳児からうがい、4・5歳児には歯磨きの指導を担当や保健担当が行うほか、日々の保育の中で励行している。</p> <p>個々の子どもの健康状態の把握に努め、嘱託医と連携して健康管理を行っている</p> <p>日々の子どもの健康状態については、登園時の保護者との会話や乳児は連絡帳によって把握するほか、担任の視診等を行って把握に努め、必要に応じて昼ミーティングで情報を共有している。子どもの急な体調変化時には、全職員に配付されている「BBハンドブック」や安全衛生・保健関連のマニュアルに基づいて対応することとなっている。健康診断・歯科検診は全園児年2回実施して子どもの健康状態を把握するほか、嘱託医と連携して入園時の保護者向けに「健康について」の講座も開催している。</p> <p>感染症等の保健情報を発信して、感染症予防や蔓延防止などに努めている</p> <p>感染症発生時には発生状況を園内で掲示したり、臨時の保健便りを発行して保護者の注意を促して蔓延予防に努めている。毎月発行する保健便りでは季節に応じた感染症や健康上の注意事項などを保護者に伝えるほか、行政からの保健情報やセミナーの情報を掲示するなどして、保護者への保健に関する啓発に努めている。SIDS予防に向けて入園時に保健情報の一つとして説明しているほか、入園後の0歳児クラス懇談会でも伝えており、日常の保育においては睡眠時の呼吸などについて、0歳児に10分間隔で確認を行っている。</p>

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている ○ 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている ○ 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている
事業者が特に力を入れている取り組み	

8. 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

講評
<p>多様な機会を通じて個々の保護者の意向等を把握して柔軟な支援を行っている</p> <p>個々の保護者の要望や家庭状況等は入園前の個人面談で把握されるとともに、入園後は年1～2回行われる個人面談や日々の保護者との会話のほか、連絡帳等で把握するように努めている。個人面談については保護者の希望に応じて随時受け付けており、必要に応じて園からも申し入れて行っている。事前の申込によって延長保育を受け付けることを基本としているが、保護者の急な残業による延長保育の申し出を電話でも受け付けている。また土曜保育については就労でなくても、保育の希望があれば対応するなどして、柔軟な支援に努めている。</p> <p>さまざまな方法で保護者に園の保育や子どもの姿を伝え、理解共有を図っている</p> <p>園ではクラス懇談会や保育参加などのさまざまな機会を通じて園の取組等について保護者との共通理解に努めている。クラス懇談会は4・5歳児については年3回、3歳児以下は年2回実施しており、年度当初の懇談会ではクラス目標や年齢ごとの発達の特徴や保育内容を伝えるほか、写真を活用して日々の様子を伝えている。保育参加は各家庭で年1回、保護者の都合に応じて受け付けており、乳児については保護者の希望に応じて複数回可能としている。また日々の様子については今年度から壁新聞を写真入りのカラー刷りにし、よりわかりやすくしている。</p> <p>アンケート等によって保護者の意向を把握し、業務の改善に活かしている</p> <p>園ではさまざまな機会を通じて保護者全体の意向を把握し、業務の見直しや改善に活かすことに努めている。園内に「何でもご意見箱」を2箇所設置して匿名の意見や苦情を受け付けたり、毎年利用者調査や年度当初に園で行う保護者アンケートのほか、クラス懇談会でも意向の傾聴に努めており、「パオパブまつり」の日程変更や門の施錠の徹底、東門への暗証番号ロックの設置などの改善につなげている。またアンケート結果に対する園の対応についても園便りや書面によって保護者に配付することで、安心や信頼につなげている。</p>

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している ○ 保護者同士が交流できる機会を設けている ○ 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている ○ 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている ○ 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている
-------------	--

事業者が特に力を入れている取り組み	<p>★さまざまな情報発信で日々の保育と子どもの姿を伝え、保護者との相互理解を深めている</p> <p>クラス懇談会や保育参加、ブログなどを通じて園の保育や大切にしている考え方、子どもが日々見せる成長などを伝えるとともに、今年度は園内研修での学びを参考に、写真を活用した壁新聞を通じて日々の活動をわかりやすく伝える工夫を行っている。保護者限定としたブログでも折々の活動の様相や子どもの姿を画像とともに紹介し、保育の内容や子どもたちが日頃園で見せるさまざまな表情を保護者も楽しめるようにしている。「子育てノート(連絡帳)」などを通じた毎日の情報共有にも努め、「保護者とともに子育てをすすめる」理念の実践につなげている。</p>
--------------------------	--

9. 地域のニーズに即した子育て支援を実施している

<p>講評</p> <p>地域の子育てセンターとして多様な取組を行い、保育の専門性を地域に還元している</p> <p>地域子育て支援として、一時保育に加え、多彩な取組を展開して子育てに関する啓発や地域の子育て世帯のコミュニティ形成につなげている。担当職員が中心となり、親子ひろば「プレーメン」として週2回園庭やプレーメンの部屋を開放したり、年7回の保育体験や外部講師による年6回の子育て講座のほか、子育て情報紙「プレーメンの庭から」を年10回発行している。</p> <p>多様な子育て支援の中で交流が図られ、地域の子育て世帯のコミュニティとなっている</p> <p>「プレーメン」の活動をはじめとする各種の地域子育て支援は、地域の親子と在園児との交流や子育て家庭同士の交流の場ともなっており、さまざまな交流の中で担当職員が間に入り、来園者同士の関係構築を支援し、親睦が深められるよう配慮している。また双子の親の交流会「ツインズの会」、ダウン症の親の会として「スマイル21」、発達障害を持つ子どもの親の会「ティーダママの会」など、多くの地域の子育てサークルの活動の場として、園の一室を提供している。</p> <p>各事業の反省と参加者のアンケートを参考にして次年度の事業計画を策定している</p> <p>地域支援担当による「地域委員会」が設置され、「プレーメン」の取組に関する検討や広報紙「プレーメンの庭から」の作成などを実施するほか、各事業の反省による年間の振り返りを行って年間センター事業報告としてまとめ、次年度の事業計画につなげている。また親子ひろば「プレーメン」の来訪者との会話や育児相談の中からもニーズの把握に努め、子育て講座や保育所体験後のアンケートを参考に次年度の計画に反映するようにしている。個々の事業の実施計画について書式を定め、立案や実施管理に活かしていくことを課題としている。</p>

標準項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している ○ 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている ○ 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている
事業者が特に力を入れている取り組み	

利用者調査結果

調査概要

<ul style="list-style-type: none"> ● 調査対象: 調査開始時点での本園の利用世帯96を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。 ● 調査方法: アンケート方式 <p>調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。</p> <p>回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者総数: 96人 ● 共通評価項目による調査対象者数: 96人 ● 共通評価項目による調査の有効回答者数: 53人 ● 利用者総数に対する回答者割合(%): 55.2%

調査結果全体のコメント

<p>総合的な感想として、園に対する満足度は「大変満足」69.8%・「満足」26.4%の計96.2%と高い値を得ており、設問別では「食事」「戸外活動」「保護者との信頼関係」「子どもが大切にされている」など全15問中9問で80~100%の高い支持を得ている。自由意見では「担任や子どもに関わる大人が愛情を持って接してくれて子どもとの信頼関係もできており、日々子どもの様子や他の子どもとの関わり等、お迎えの時に担任から説明があり、聞くのが楽しみになっている」「先生方も職員の皆様方も子ども達の名前をすぐに覚え、親の顔も覚えてくれたりと、さすがプロだなと思っており、日々の保育内容も子ども達の発達に合わせて考えてくれる」「食事はとてもバランスが取れて味付けも申し分がなく、泥遊び・野菜作り・シルバーセンター訪問などよい経験をたくさんさせてくれて満足している」「子どものことを第一に考えている保育方針がよい」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては安全衛生、保護者の負担や就労への配慮、職員の保護者への接遇、子どもの様子の報告・説明、保育や行事に関することなどが見られた。</p>
--

調査結果

1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	49人	どちらともいえない	2人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人

<p>選択の割合(「無回答・非該当」を除く・以下同)は、「はい」が94.2%、「どちらともいえない」が3.8%、「いいえ」が1.9%となっている。自由意見は6件で、「いつもおいしそう」「とても工夫されている」「アレルギーにもきちんと対応してくれる」「添加物の少ないものを出してくれていて安心でき、バランスもとてもよい」のほか、午後食や試食に関する意見も見られるが、実数値からは保護者の高い支持がうかがわれる。</p>							
<p>2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか</p>							
はい	53人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
<p>有効回答者53人全員(100%)が「はい」と答えている。自由意見は「そう思う」「外遊びなど自然と接する時間をとても多く取り入れてくれている」の2件があった。</p>							
<p>3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか</p>							
はい	44人	どちらともいえない	4人	いいえ	1人	無回答・非該当	4人
<p>「はい」が89.8%、「どちらともいえない」が8.2%、「いいえ」が2.0%となっている。自由意見は3件で、「快く受けてくれて助かっている」「一度もいやな顔(対応)をされたことがない」のほか、連絡受付時の対応についてさらなる配慮を望む声もあるが、実数値からは概ね支持を得ていることがうかがわれる。</p>							
<p>4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か</p>							
はい	40人	どちらともいえない	11人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
<p>「はい」が75.5%、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が3.8%となっている。自由意見は9件で、「病院へも連れていってくれてありがたい」「多人数のクラスであるにもかかわらず、微熱や小さなケガに対しても気づいてケアしてくれる」「発熱時のお迎えが遅くなりがちだがきっちり対応してくれている」のほか、ケガ等の観察や保護者への説明・対応、暑さ対策などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。</p>							
<p>5. 安全対策が十分取られていると思うか</p>							
はい	27人	どちらともいえない	20人	いいえ	5人	無回答・非該当	1人
<p>「はい」が51.9%、「どちらともいえない」が38.5%、「いいえ」が9.6%となっている。自由意見は10件で、「そう思う」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、衛生面、地震対策について、懸念や要望が挙げられている。</p>							
<p>6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か</p>							
はい	35人	どちらともいえない	16人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
<p>「はい」が66.0%、「どちらともいえない」が30.2%、「いいえ」が3.8%となっている。自由意見は9件で、「今年は行事を土曜中心にしてもらって助かった」などのほか、行事の開催曜日や時間帯などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>							
<p>7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか</p>							
はい	48人	どちらともいえない	3人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
<p>「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が3.8%となっている。自由意見は保護者とのコミュニケーション機会の設定や職員の対応の平準化について、さらなる配慮を望む声が7件寄せられているが、実数値からは高い信頼を得ているものと思われる。</p>							
<p>8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか</p>							
はい	44人	どちらともいえない	5人	いいえ	1人	無回答・非該当	3人
<p>「はい」が88.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が2.0%となっている。自由意見は3件で、「入園してすぐにアンケートがあり、面談時にもその話題に触れていた」「あると思う」のほか、職員との相互理解についてさらなる向上を望む声もあるが、実数値からは概ね支持を得ているものと考えられる。</p>							
<p>9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか</p>							
はい	39人	どちらともいえない	8人	いいえ	1人	無回答・非該当	5人
<p>「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が2.1%となっている。自由意見は保護者や子どものプライバシーへの配慮について、さらなる改善を望む声が2件あったが、実数値からは概ね信頼を得ているものと考えられる。</p>							
<p>10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか</p>							
はい	50人	どちらともいえない	1人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
<p>「はい」が96.2%、「どちらともいえない」が1.9%、「いいえ」が1.9%となっている。自由意見は5件で、「とても大切にしてくれて愛情をもって接してくれているのを感じる」「いつも歓迎されると感じている」「ノートなど丁寧に書いてくれてよく伝わってくるし、写真でもいい顔をしている」などのほか、職員の子どもへの接し方について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>							
<p>11. 職員の対応は丁寧か</p>							
はい	47人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
<p>「はい」が88.7%、「どちらともいえない」が11.3%となっている。自由意見は8件で、「皆さんにこやかにあいさつしてくれる」「朝、園準備の女性が目を見て丁寧にあいさつしてくれるのがとても気持ちよい」「皆さん元気に挨拶してくれてとても感じがよく、名前も覚えていてくれて安心する」のほか、職員の対応のさらなる平準化を望む声も寄せられている。</p>							
<p>12. 要望や不満を事業所に言いやすいか</p>							
はい	29人	どちらともいえない	15人	いいえ	3人	無回答・非該当	6人
<p>「はい」が61.7%、「どちらともいえない」が31.9%、「いいえ」が6.4%となっている。自由意見は「今のところ不満はない」のほか、要望や不満等の言いやすい環境作りなど7件があった。</p>							
<p>13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか</p>							
はい	30人	どちらともいえない	13人	いいえ	0人	無回答・非該当	10人
<p>「はい」が69.8%、「どちらともいえない」が30.2%となっている。自由意見は「感謝している」の1件があった。</p>							
<p>14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか</p>							
はい	48人	どちらともいえない	1人	いいえ	1人	無回答・非該当	3人

「はい」が96.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」が2.0%となっている。自由意見は「考えたことがなかった」「園との確執が困るので相談しない」の2件があったが、実数値からは概ね信頼を得られているものと思われる。

15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】

サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	6人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

該当者9人のうち6人(75.0%)が「はい」と答えている。自由意見は「入園時の説明について、さらなる配慮を望む声」が寄せられている。

事業者のコメント

--